

自検協、令和3年版「わが国の自動車保有動向」を公開

乗用車及び貨物車の 平均車齢・平均使用年数が 過去最長を更新

自動車検査登録情報協会はこのほど、令和3年版「わが国の自動車保有動向」を公開しました。

それによると、2021年3月末時点での軽自動車を含む自動車保有台数は、前年同日時点の81,849,782台より227,970台多い82,077,752台でした。

そのうち乗用車は同じく108,526台多い61,917,112台となりました。さらに内訳を見ると、普通車が360,404台多い19,975,314台、小型車が459,311台少ない19,206,187台、軽四輪車が207,433台多い22,735,611台でした。一方貨物車は28,709台多い14,395,843台となりました。

平均車齢^{*1}（軽自動車を除く）は、乗用車が8.84年で前年より0.12年長期化し、29年連続して高齢化するとともに27年連続で過去最高齢を更新しました。車種別では、普通乗用車が8.34年と前年より0.12年長期化し7年連続で最高齢を更新した一方、小型乗用車は9.37年で0.41年短くなりました。貨物車は11.53年で0.09年延び、29年連続で最高齢を更新しました。

平均使用年数^{*2}（軽自動車を除く）は、乗用車が13.87年となり前年より0.36年長期化し、過去最高となりました。車種別では、普通乗用車が13.87年で同0.34年長期化、小型乗用車が13.87年で同0.37年長期化しています。一方、貨物車（軽自動車・被けん引車を除く）は15.73年で

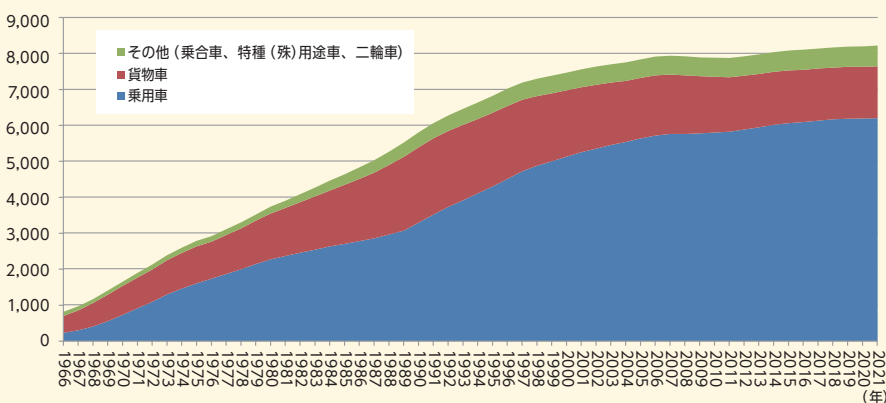
同0.42年長期化し、9年連続の増加で過去最高を記録しています。

2020年度は新型コロナウイルスの影響などで新車販売台数が落ち込み、車両の買い替えが停滞したことも、平均車齢及び平均使用年数が長期化したことの一因にあると考えられます。

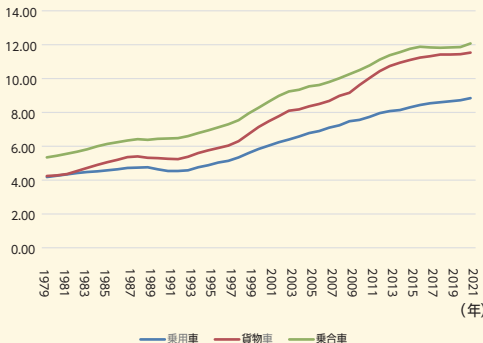
*1平均車齢：国内でナンバープレートを付けている自動車が初度登録してからの経過年の平均。

*2平均使用年数：初度登録年度ごとに1年前の保有台数と比較し、減少した車両を1年間に抹消された車両とみなして、国内で新規登録されてから抹消登録するまでの平均年数を算出。ただし、減少台数には一時抹消も含まれるため、自動車が完全にスクラップされるまでの期間とは若干異なる。

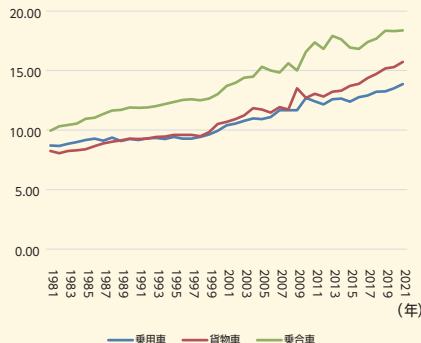
(万台) グラフ1 車種別の自動車保有台数推



(年) グラフ2 平均車齢の推移



(年) グラフ3 平均使用年数の推移



第11回ツールジャパン、開催

整備工具、塗料・接着用品、作業服、保護具などが一堂に会する「第11回ツールジャパン」が10月13～15日、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

今回から「カー用品・整備工具ゾーン」

が新設され、エンジンオイル、潤滑剤、LED作業灯、ポリッシャー、コンパウンドといった製品が多数展示されました。自動車整備・補修分野で培われた技術を基にした新製品・サービスも出品され、幅広い業

界の来場者から注目を集めていました。

同展は「第11回農業Week」、「第15回国際ガーデンEXPO」と併催され、3日間の来場者数は全展合計で27,456人でした。



イチネンMTMは、エンジンルーム内を照らしたり作業場の簡易照明として利用できる「LEDバーライト」など各種作業用ライトを出品



ザーレンコーポレーションは、防錆、清浄効果のある潤滑スプレー「ルブリマックス」をPR。錆で固着したボルトやヒンジをゆるめたり、ドアヒンジの動きをスムーズにする



磨研は銅板やアルミ合金、ガラス、PPなどを1ステップで磨き上げる「HP-METAL」を参考出品

ニーズ高まる福祉車両が多数登場

第48回国際福祉機器展 H.C.R2021、開催

国内最大級の福祉機器総合展「第48回国際福祉機器展 H.C.R2021」が11月10～12日、東京ビッグサイト青海展示棟（東京都江東区）で開催されました。

高齢者、障がい者の自立と参加を支援することを目的に開催される同展は、2年ぶりにリアル展が実施され、3日間合計で39,647人が来場しました。併せてオンラインによる製品紹介や関連セミナーが行われ、最新の保健福祉、介護、リハビリに役立つ製品やサービスが紹介されました。

この中には運転補助装置や回転シートを搭載した車両や、福祉施設が利用者の送迎に利用する福祉車両も含まれます。リアル展ではマツダが実車を展示したほか、トヨタ、ダイハツ、日産、ホンダがオンライン上で各種車両を紹介。また、福祉車両の架装を手掛ける販売店各社は、オリジナルの運転補助装置や回転シートなどを出品しました。



マツダは運転補助装置と乗降用補助シートを装備したMX-30（写真左）を参考出品。アクセルリングとハンドブレーキを装備し、手動で発進と加減速を制御する。また、すでに市販されているロードスター（写真右）は、アクセルとブレーキ操作を左手で行うためのコントロールグリップと、旋回を補助するステアリングノブを備える



フジオートは、荷室に昇降リフトを備えたN-BOXを出品。このほか電動で車いすを収納するアームリフトや、シートへの移乗を補助するトランスファーボードといったオリジナル装置もPR



Guidosimplex Japanは、ステアリングに装着してアクセル操作やステアリングスイッチのコントロールができる「906GV プッシュタイプエレクトロニックアクセルリング」を紹介

NGPバーチャル工場見学会を開催

全国の子どもたちに体験を交えた学びを提供

NGPが子どもたちへの教育支援を目的として展開している「NGPバーチャル工場見学会」は、体験を交えた学びを提供する場として多くの学校から開催のお申し込みをいただいています。

10月21日～11月16日までに実施した学校は、次の通りです。

NGPは今後も自動車リサイクル事業を通じて、これからの時代を担う子どもたちへ向けた教育支援活動に取り組んで参ります。

- ・10月19・22・26・29日：安岡小学校（山口県下関市）5年生123名
- ・10月21日：屯田北小学校（北海道札幌市）5年生72名
- ・10月26日：沼田東小学校（広島県三原市）5年生56名
- ・10月27日：新琴似西小学校（北海道札幌市）5年生74名
- ・10月28日：西南部小学校（石川県金沢市）5年生106名
- ・10月28日：牛深東小学校（熊本県天草市）5年生15名
- ・10月29日：大治南小学校（愛知県海部郡大治町）5年生98名
- ・11月2日：当知小学校（愛知県名古屋市中区）5年生85名
- ・11月4日：琴似小学校（北海道札幌市）5年生86名
- ・11月5日：城西小学校（千葉県東金市）5年生70名
- ・11月9日：栗真小学校（三重県津市）5年生10名※組合員の(株)マーク・コーポレーションが実施
- ・11月11日：宮の原小学校（栃木県宇都宮市）5年生40名
- ・11月12日：増戸小学校（東京都あきる野市）5年生103名
- ・11月16日：青葉小学校（埼玉県久喜市）5年生42名



バーチャル工場見学会の様子：当知小学校



宮の原小学校

循環型社会の実現に向けた活動内容を発信

廃車王の取り組みについて、TBS SDGsプロジェクト「地球を笑顔にするWEEK」が取材

NGPが運営する廃車買い取りサービス「廃車王」がTBSから取材を受け、11月1～30日の期間、動画配信サービス・Tverで特集番組が配信されました。

TBSは11月1～7日を「地球を笑顔にするWEEK」として、同局テレビ番組内でSDGsコーナーを展開するプロジェクトを実施しました。Tverで配信された特集は、同プロジェクトのパートナー企業である廃車王の取り組みを紹介するものです。

「多くの人にSDGsについて興味をもってもらえるように」というプロジェクトの趣旨を受けて、お客様から引き取った使用済み自動車を適切にリユース・リサイクルして循環型社会に貢献していること、そして国内最大級の不法投棄事件が起こった香川県豊島の環境再生・保全活動にも役立てられていることを発信しました。



取材の様子

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和3年10月： **2,270t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和3年10月： **0.7t**

※自動車リサイクル部品産業共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP協同組合は10月28・29日の2日間、香川県豊島で環境保全・再生活動を行いました。

6回目となる今回は過去最大となる総勢22名が参加し、オリーブの収穫と不法投棄現場周辺の海岸漂着ゴミの清掃活動を実施しました。なお、今回も前回に引き続き新型コロナウイルス感染防止の観点から、マスク着用はもちろんのこと、事前に抗原検査を行い、豊島への移動にも定期船ではなくチャーター船を利用するなど、可能な限り豊島住民との接触を控えるよう配慮しました。

3年目となるオリーブの収穫は、天候不順の影響からかオリーブの実のつきが悪く、例年より収穫できないことが危惧されましたが、昨年とは異なるエリアで収穫することで、過去最大の収穫量を達成することができました。収穫したオリーブから作られたオリーブオイルの販売収益が瀬戸内オリーブ基金の活動資金となり、豊島での環境保全や3Rの大切さを後世に伝える活動に利用されます。

不法投棄現場周辺の海岸漂着ゴミの回



オリーブの収穫作業

収活動では、広い範囲にゴミが漂着していたため、横引ヶ浜と水ヶ浦の2カ所で清掃を行いました。ゴミの多くはペットボトルや、発砲スチロールなどのプラスチックゴミでした。そのまま放置するとマイクロプラスチックとなり、豊島を含む瀬戸内海の生態系を壊してしまう恐れがあることから、定期的な清掃活動を継続していきます。

また、初参加のメンバーは不法投棄現場と資料館を見学し、廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長から、豊島事件の歴史と浄化作業状況についての説明を受けました。メンバーは事前に豊島事件や豊島での活動意義を学んでから参加



廃棄物対策豊島住民会議・安岐正三事務局長から、豊島事件の歴史を学ぶ

していますが、自らの目で現場を確認することで、事件発生から40年以上経過しているにもかかわらず浄化作業が完了していないこと、そして不法投棄によって破壊された自然環境を再生するにはさらに長い年月が必要となることを、再認識することができました。



海岸漂着ゴミの回収活動

瀬戸内の美しい自然を守る取り組みを支援

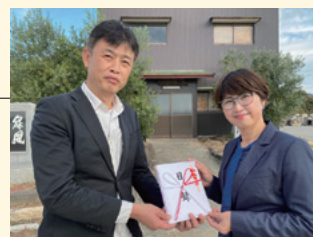
NGP、瀬戸内オリーブ基金へ寄付金を贈呈

NGP協同組合は、NPO法人瀬戸内オリーブ基金に寄付金を贈呈しました。寄付金の贈呈は今回で3回目です。小林信夫理事長の代理として鈴木成幸専務理事が豊島を訪問し、瀬戸内オリーブ基金の山元秀穂事務局長に目録を贈呈しました。

NGPは2019年に宣言したSDGsの取

り組みの一環として、廃車買い取りサービス「廃車王」で引き取った車両台数や、NGPで販売したリサイクル部品の利用によるCO₂削減量に応じて同基金へ寄付するとともに、廃車王全加盟店に募金箱を設置しています。

NGPでは、豊島事件の悲劇を二度と繰り返さないために、今後もオリーブ基



NGP・鈴木成幸専務理事（写真左）から、瀬戸内オリーブ基金・山元秀穂事務局長へ寄付金目録を贈呈

金の活動を支援し、豊島の環境保全・再生に貢献してまいります。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>